

## 病院を進化させていくために

ほげい船原稿 平成 24 年 7 月

24 年度もはや三分の一が終わろうとしています、一年が早いと感じている人は多いのではないのでしょうか。高知病院も開院 10 周年を一区切りとして再スタートを切りましたが、あっという間に一年が過ぎてしまいました。オバマ大統領が選挙戦の際、「チェンジ」という言葉で、アメリカ国民に訴え勝利しましたが、当時流行語としてわが国でも多くのところでこの「チェンジ」が使用されていたように思います。私たちも質の高い医療を提供し地域に信頼される病院となることを目標に「チェンジ」という言葉を用いてきました。今年は大統領選の年であることから、「チェンジ」という言葉が流行してから 4 年が過ぎたこととなります。

高知県の医療の一端を担う病院として様々な分野で貢献していきたいと考えておりますが、この 4 年の間での大きな変化は、がん連携推進病院、DMA T の締結と災害拠点病院に指定されたことで、このことは、私たちの病院に対する期待を表すものといえますし、これに答えていかなければなりません。施設認定を受けることで目標が達成できたのではなく、これからが、今まで以上に重要で、これらの機能を継続的に組織化し発展させていかなければなりません。災害対策を充実させるために次の目標は DMA T チームを増やすことでしたが、6 月 22 日 DMA T 研修に新しいチームが参加することとなり、この結果、複数の DMA T チームを持つことができそうです。こられのスタッフを中心に今年度も充実した災害訓練を計画し近い将来発生することが予想されている南海地震に対応できるようにソフトの面からも充実させていきたいと思っています。

また、癌による死亡者数は毎年増加してきており、癌診療の充実は重要な臨床的課題で、がん連携推進病院になったのを機にさらに高度の医療に取り組んでいきたいと思っています。特に手術を施行する外科医の存在は大切で、症例数が多いことは若手医師の確保にも大きな影響を与えます。高知病院にも腹腔鏡手術など新しい手技を持つ医師が大学から多く派遣され症例数も増加してきており発展していくことと思っています。転勤により高知に赴任した医師が多いため地域の先生方との交流が十分ではありませんが、症例を積み重ねていくことで存在感を出すことができるのではないかと考えております。

また、癌診療には欠かせないのが放射線治療ですが、当院には全国的に数少ない専門医が治療に当たっておりハード面の強化から機器を充実させたいと考えております。今年度は放射線照射装置の更新の時期で、すでに機種選定にとりかかっており、高機能を有する機器を導入する予定となっています。機器購入に関して補助があるわけでもなく、病院の収益力に応じて機器の購入額が決められるようになっており、診療の質をあげ機器整備を図るには、病院の業績を上げねばなりません。国立病院機構の病院は国立と同じで国からたくさんの補助を受けていると思われがちですが、国からの補助はほとんどなく、独立採算でその上、国時代の多額の負債を返却しながら運営しているのが実情です。このような

状況であり県民の期待に応える病院にするためには、経営基盤を確立させていくことも重要です。

今年度に入り、病院各部署の職員と話す機会があり、多くの意見をいただきました。どの意見も病院活性化に関しての積極的な意見で職員の意識が大きく変わってきていることを実感し頼もしく感じました。これからも職員の皆さんと意見を交換しながら、一緒に力を合わせてすばらしい高知病院に進化させていきたいと思っておりますので、ご協力の程よろしくお願い致します。